

広島県経済の動向

令和7年12月18日
商工労働局

目 次

1	経済動向の概要	1
	(1) 国内経済の動向		
	(2) 広島県経済の動向		
2	県内主要製造業の生産動向	3
	(1) 鉄鋼		
	(2) 自動車		
	(3) 造船		
	(4) 一般機械		
	(5) 電気機械		
3	中小企業の動向	5
	(1) 概況		
	(2) 景況感・景況感の変化		
	(3) 前月から変化のあった主な業種		
4	企業倒産状況	7
	(1) 概況		
	(2) 業種別		
	(3) 原因別		
	(4) 今後の見通し		
5	最近の雇用失業情勢	8
	(1) 県内の有効求人・求職の動向		
	(2) 県内の新規求人・求職の動向		
	(3) 県内の人員整理の状況		
	(4) 完全失業率の状況 (全国・県内)		

(注) 「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	9月	10月	11月
基調判断	景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している		
輸 出	おおむね横ばいとなっている		
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	緩やかに持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる		
住宅建設	建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	弱含んでいる
消費者物価	上昇している		
企業収益	米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられる中で、改善に足踏みがみられる		

イ 先行き

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	8月	9月	10月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	弱めの動きとなっている		
生 産	横ばい圏内の動きとなっている		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	弱めの動きとなっている		減少している
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	前年を上回っている		

イ 県内の経済の先行き

先行きについては、日米間の通商交渉が合意に至ったものの、各国の通商政策等の今後の展開や、その影響を受けた海外の経済・物価動向を巡る不確実性は高い状況が続いている。こうしたことで、これらの動きが企業の生産動向や設備投資、賃金・価格設定行動など、県内の経済金融情勢に与える影響を十分注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和7年11月7日公表）】

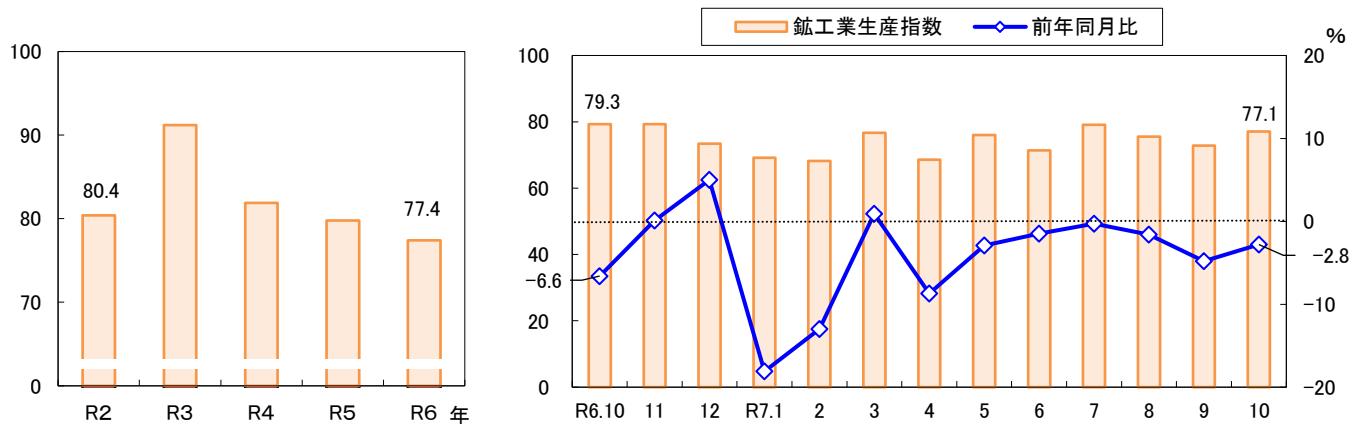
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和7年10月）

10月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年=100）は77.1で、前年同月比で2.8%減少となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

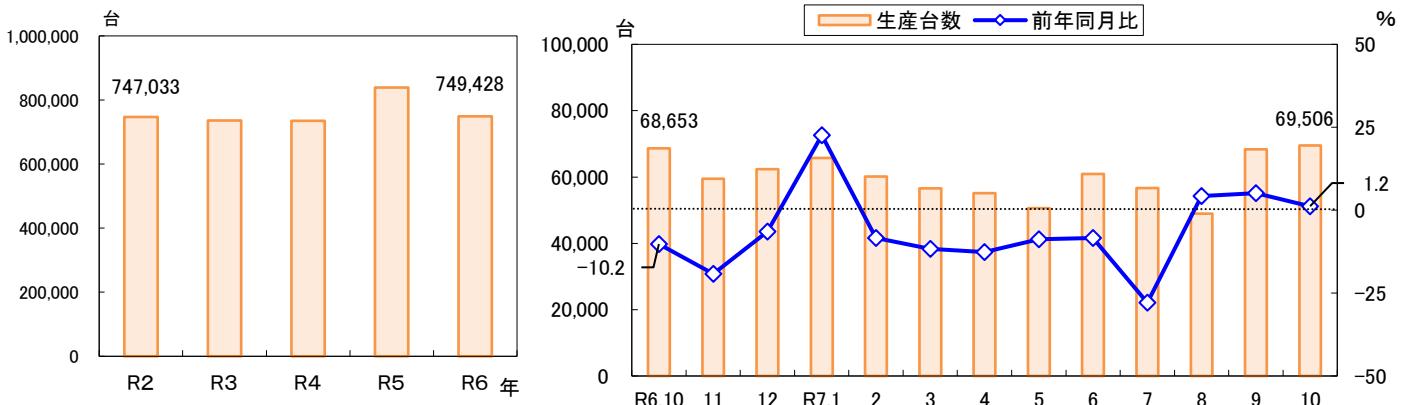


(2) 自動車（令和7年10月）

10月の国内生産台数は69,506台で、前年同月比で1.2%増加となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ（株）】

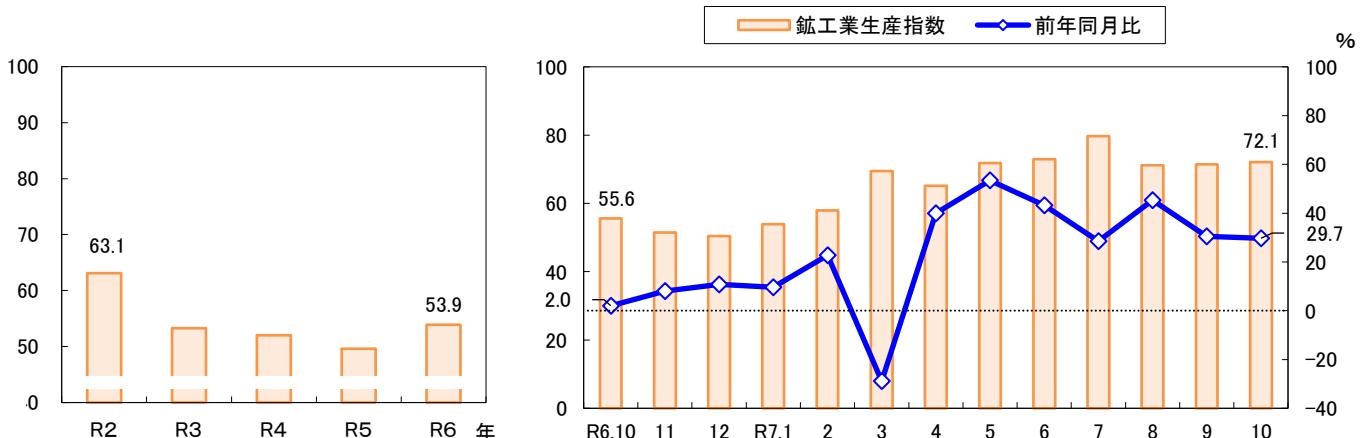


(3) 造船（令和7年10月）

10月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、平成27年=100）は72.1で、前年同月比で29.7%増加となっている。

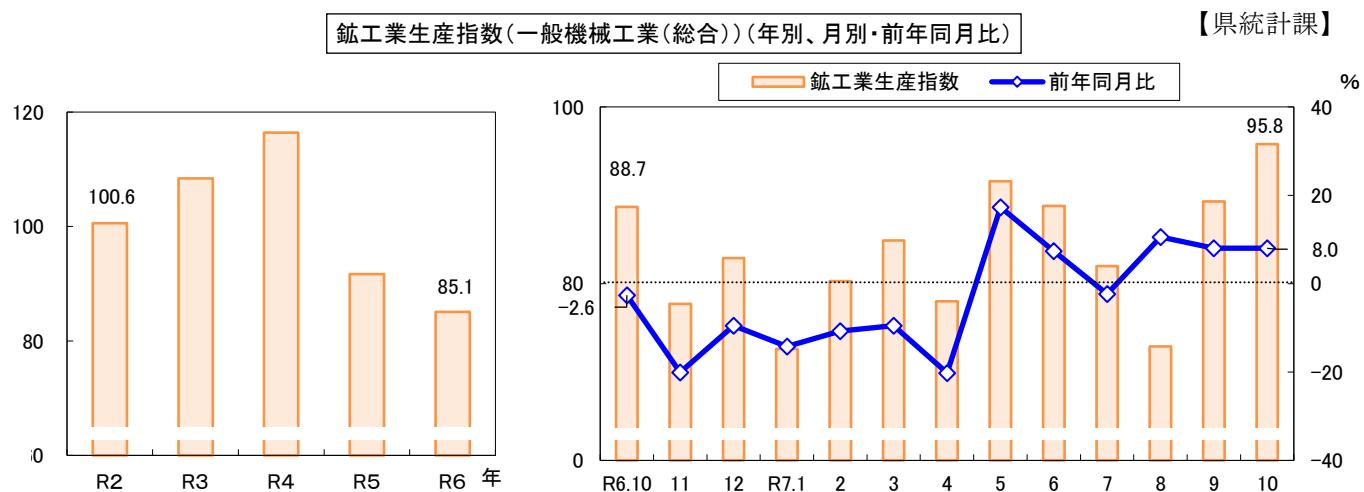
鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



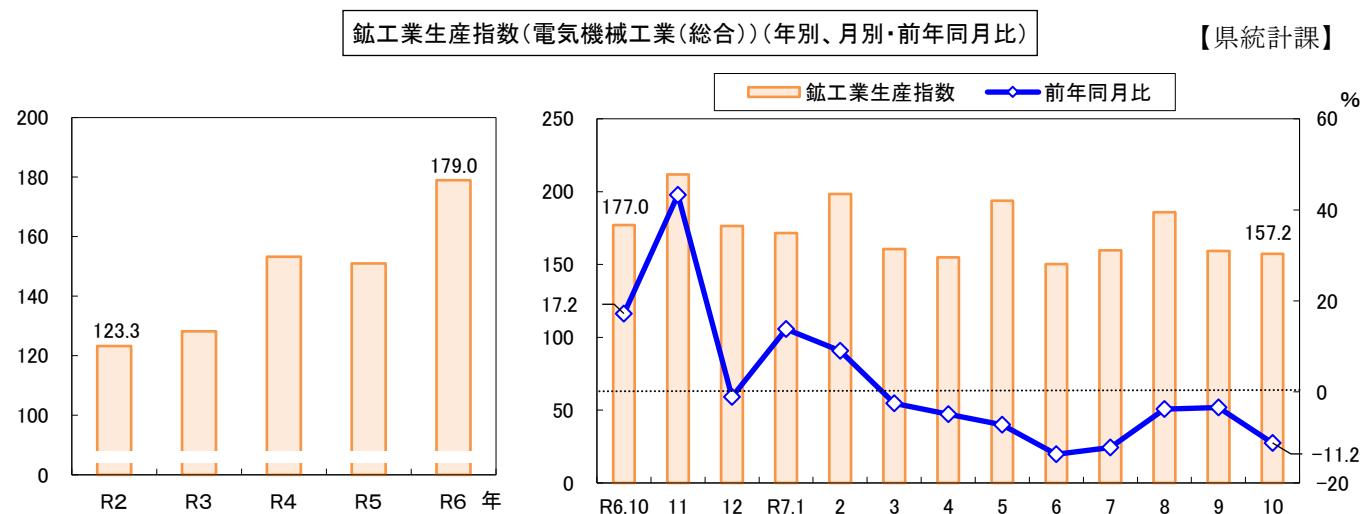
(4) 一般機械（令和7年10月）

10月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は95.8で、前年同月比で8.0%増加となっている。



(5) 電気機械（令和7年10月）

10月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は157.2で、前年同月比で11.2%減少となっている。



3 中小企業の動向（令和7年10月）

【広島県中小企業団体中央会（令和7年11月18日時点）】

（1）概況

県内企業では、原材料費・人件費・物流費などのコスト上昇が続き、販売価格への転嫁が追いつかず収益が圧迫されている。円安や米国の関税政策への懸念も広がっており、業種間でばらつきはあるものの全体として経営環境は厳しく、先行きは不透明な状況が続いている。

自動車関連業種では、10月の国内自動車販売台数は前年同月比▲1.8%と4か月連続減少。マツダ車は前年同月比▲28.8%となった。

また、木材業界では、10月の全国新設住宅着工戸数は71,871戸で前年同月比+3.2%。県内の10月の着工戸数は1,487戸で、前年同月比+24.5%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「10月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の10月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	9月の景況感	10月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	やや好況	やや好況
木材	やや悪い	普通
家具	やや悪い	普通
印刷	普通	普通
化学	やや悪い	普通
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（铸物）	やや悪い	普通
金属製品	やや悪い	普通

業種	9月の景況感	10月の景況感
一般機械器具	やや悪い	やや悪い
電気機械器具	やや悪い	やや悪い
自動車部品	普通	普通
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	普通	普通
内航海運	やや悪い	普通
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	9月	10月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	5	11	6
やや悪い	13	7	▲ 6
悪い	1	1	0

(3) 前月（9月）から変化のあった主な業種

業種	9月の 景況感	10月の 景況感	変化の理由・状況
鉄鋼 (鋳物)	やや悪い	普通	<p>組合員各社の状況は概ね横ばいで推移している。一部企業を除き、人手不足が直近の課題となっている。対策としては外国人技能実習生や高齢者の活用に頼らざるを得ない状況だが、抜本的な解決には労働環境の改善や賃金アップを可能にするための付加価値向上が必要であり、経営者の意識改革が求められている。</p> <p>【鞍鉄鋼協同組合連合会】</p>

4 企業倒産状況（令和7年10月）

（1）概況

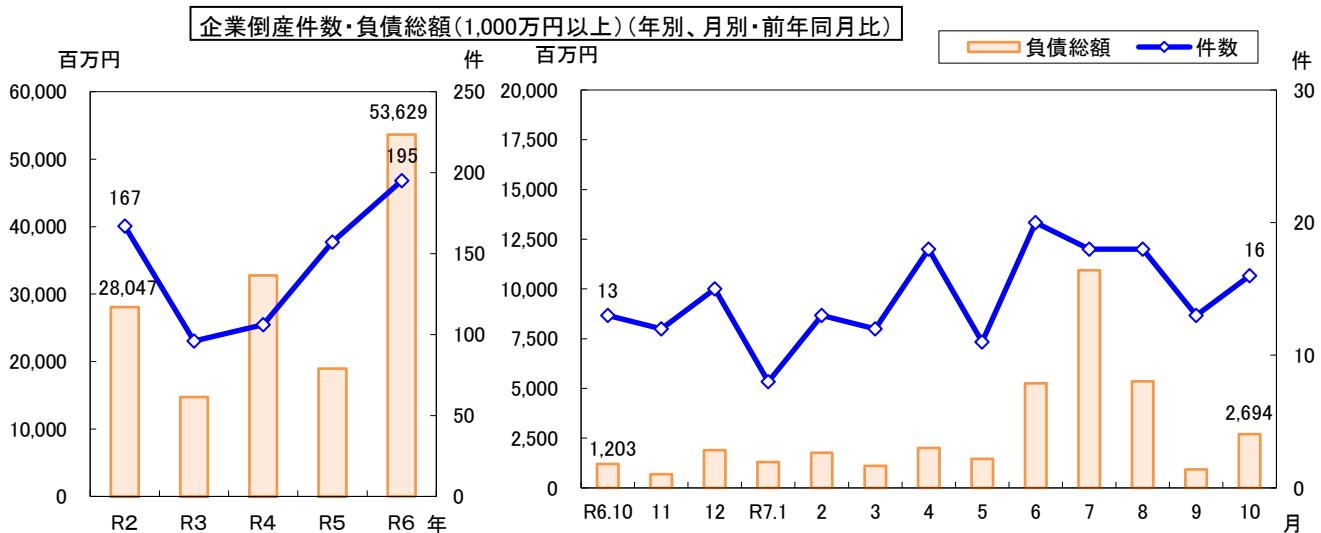
負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が16件、総額26億9,400万円であった。

前月比では、件数が3件、負債総額が17億7,200万円、それぞれ増加した。

前年同月比では、件数が3件、負債総額が14億9,100万円、それぞれ増加した。

大型倒産（負債総額10億円以上）は0件であった。

区分	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
件数 (前年同月比)	18件 (63.6%増)	13件 (18.8%減)	16件 (23.1%増)
負債総額 (前年同月比)	5,361百万円 (54.0%減)	922百万円 (72.7%減)	2,694百万円 (123.9%増)



（2）業種別

件数は、卸・小売・飲食業が6件、サービス業が5件、建設業が4件、製造業が1件となった。

負債総額は、卸・小売・飲食業、サービス業、建設業、製造業の順となった。

（3）原因別

原因別では、13件が販売不振、他社倒産余波、既往のシワ寄せ、その他が各1件であった。

（4）今後の見通し

令和7年10月度の倒産件数は16件で、令和5年以降、3年連続の10件超えとなった。負債総額は26億9,400万円で、平成29年度より9年連続で10億円を上回った。前年同月比では倒産件数、負債総額ともに増加する結果となった。

業歴別倒産状況では30年以上が9件、20年以上30年未満が1件、10年以上20年未満が3件と業歴10年以上の倒産が全体の81.2%を占め、前月9月度では業歴10年以上の倒産が全体の61.5%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が13件で最多となり、既往のシワ寄せは1件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は14件で全体の87.5%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は10月度16件中4件発生し、これまでの累計は310件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となっている。

倒産の内訳として、広島県内では建設業の倒産が増加傾向にあるなか、10月度としてはサービス業他が最多となった。令和5年5月8日、新型コロナの感染症法上の位置付けが5類へ移行されたことで、人流はコロナ前の水準に回復しつつある状況で、サービス業の回復により倒産が減少していたが、10月度では5件発生した。ただ、内訳としては動物病院の運営やビルメンテナンス、清掃業などが中心となっており、飲食、宿泊などの業界は回復基調にあるものと見られる。

一方、建設業界に於いては令和6年4月に実施された時間外労働の上限規制への対応としての働き方改革によって、生産性や人的資本の向上に資する人財育成、待遇改善等が継続的な課題になっており、対応できない中小企業は市場からの退出を余儀なくされている。こうした背景が建設業界の倒産を招いている可能性は否めない。

また、10月度としてはその他（偶発的要因）として代表者体調不良による倒産が2件生じており、高齢化による影響は避けられない状況ともいえる。

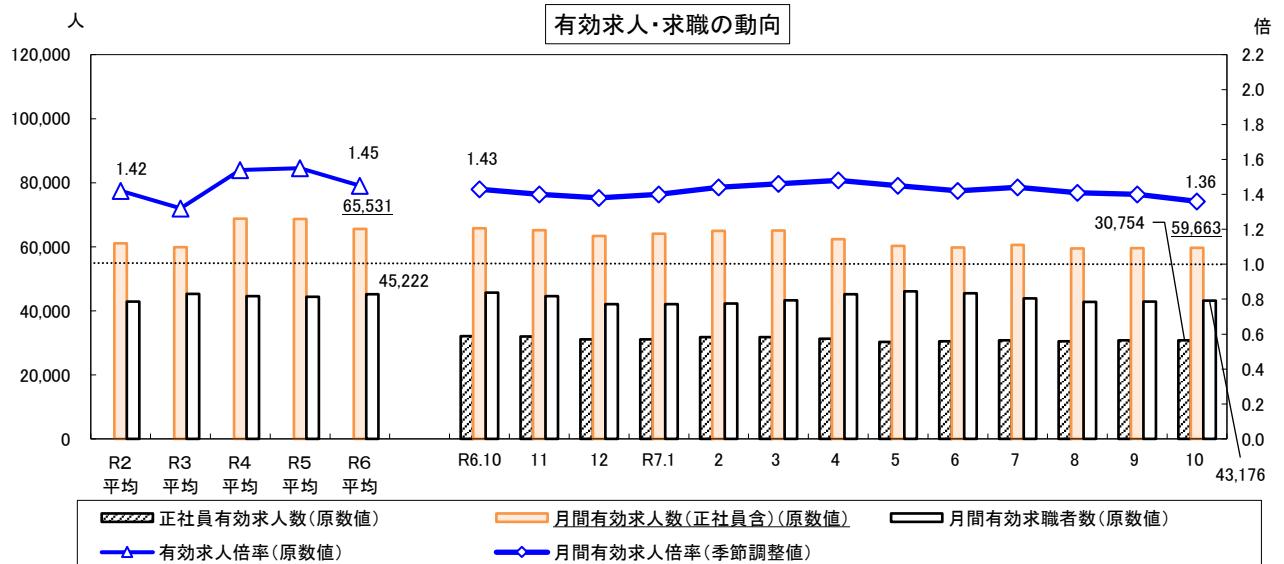
物価高や人件費上昇に加え、金利引き上げ、トランプ関税など、経営リスクが増えているなか、規制への対応や経営者高齢化のリスクなど課題は内包されており、多角的な対応が必須と言える。

5 最近の雇用失業情勢（令和7年10月）

（1）県内の有効求人・求職の動向

区分	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
有効求人倍率（季節調整値） (前月比)	1.41倍 (▲0.03ポイント)	1.40倍 (▲0.01ポイント)	1.36倍 (▲0.04ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.23倍 (+0.06ポイント)	1.23倍 (+0.03ポイント)	1.21倍 (▲0.01ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

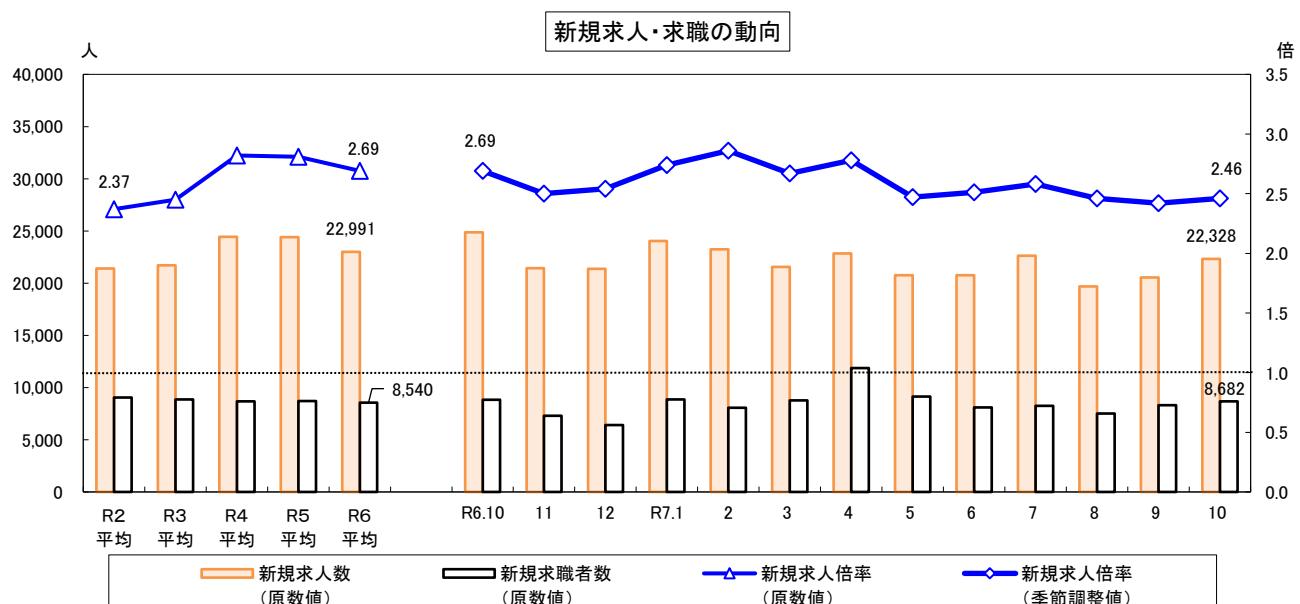
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

（2）県内の新規求人・求職の動向

区分	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
新規求人倍率（季節調整値） (前月比)	2.46倍 (▲0.12ポイント)	2.42倍 (▲0.04ポイント)	2.46倍 (+0.04ポイント)

【広島労働局】

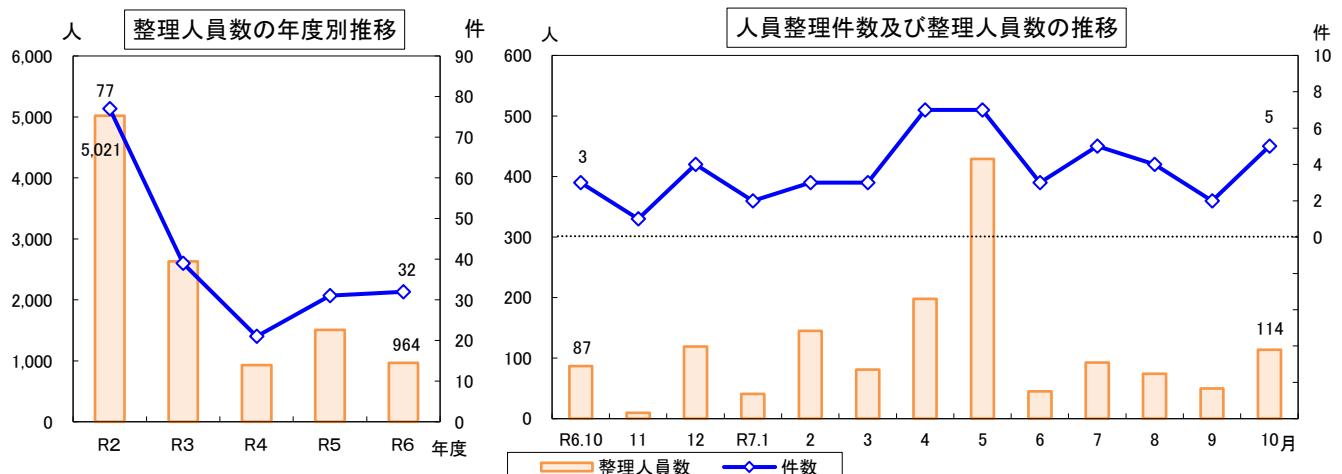


(注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区分	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
件数 (前年同月比)	4件 (+2件)	2件 (▲1件)	5件 (+2件)
整理人員 (前年同月比)	74人 (▲13人)	50人 (▲14人)	114人 (+27人)

【広島労働局】

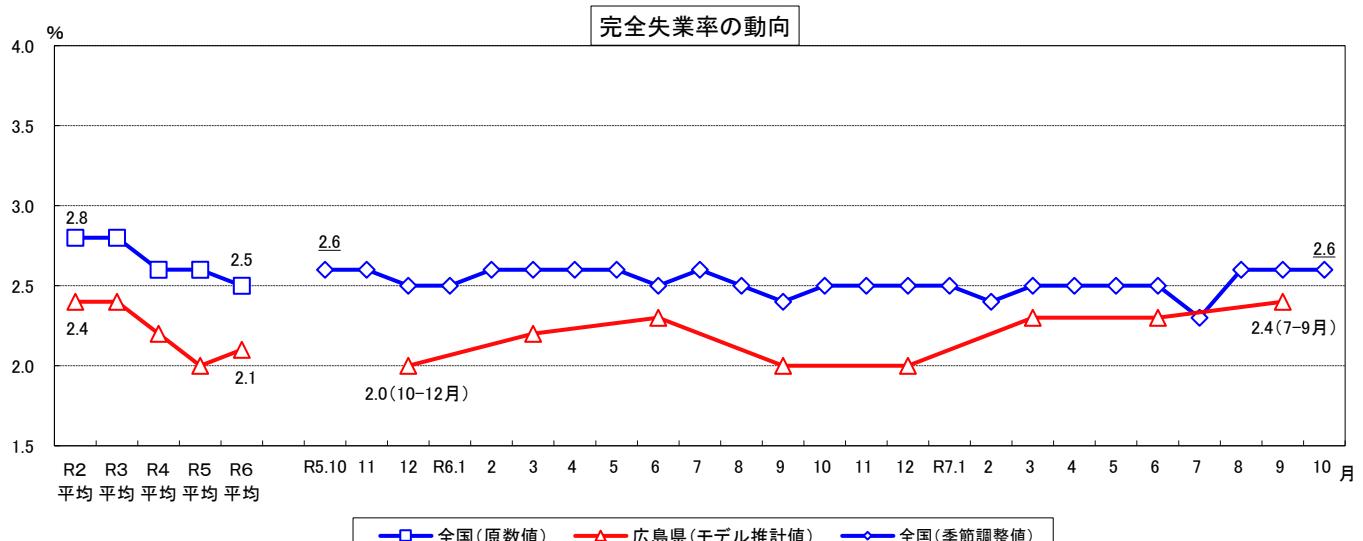


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区分	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
全国完全失業者数 (前年同月比)	182万人 (+7万人)	184万人 (+11万人)	183万人 (+13万人)
全国完全失業率（季節調整値） (前月比)	2.6% (+0.3ポイント)	2.6% (±0.0ポイント)	2.6% (±0.0ポイント)

区分	令和7年		
	1～3月平均	4～6月平均	7～9月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.3% (+0.1ポイント)	2.3% (±0.0ポイント)	2.4% (+0.4ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

※ 広島県（モデル推計値）は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。